

高き志【こころざし】

「高き志」への思い

122…この数字は、これまでの3年間に発行してきた学校便り「高き志」の通算発行数です。したがって、今回の「高き志」が通算第123号ということになります。実は、これまで校長として勤務した学校でも同様の学校だよりを5年間発行してきました。こちらの通算発行数が220号でした。合計した8年間での通算発行数は343号になります。校長になったら、「これだけは続けよう」と心に決めていたので、この8年間それができたことで、少しは自分を褒めてあげてもいいのかなと思っています。

今回は、校長としての職務が終わりに近づいたところで、この学校便り「高き志」への私の思いを書かせていただきたいと思います。

この学校便り「高き志」は、私の「思い」「願い」「感じたこと」「やりたいこと」等を保護者の方々や地域の方々にお伝えして、できれば、それらを共有して、高木小学校の子どもたちの健やかな育ちの一助にしていきたいと考え発行してきました。そして、お読みいただき、内容についてご意見をいただいたり、お話をしたりすることで、私たちの意識が高まり、子どもたちに返すことができればとも考えてきました。そんな「高き志」ですが、実はいくつかの視点をもち、それらを伝えたいと考え書いてきました。それは、以下のようなものです。

- 私が思っていること、願っていること、感じたこと、やりたいこと等
- 子どもたちや職員の光る場面（保護者や地域、教師の光る場面も…）
- 日々の生活の中で見つけた、ちょっと心温まる話や場面（本やメディアからの情報も含め）
- 自分の経験も踏まえ、子育てについて大切なこと
- 町教委や学校が進めようとしていること
（コミュニティ・スクール【学校運営協議会】、ICT活用教育、小学校英語教育、学力向上対策等）
- 学校側から発信しなければいけない内容（学校経営方針、学校評価結果、学力検査の結果等）
- 学校側から啓発するべき内容（人権教育、特別支援教育、いじめ防止、道徳教育等）

そして、それぞれの通信を単発に終わらせず、様々な広がりを目指してきました。さらに、こだわっていたのは、「言行一致」という言葉です。この言葉は、私が仕事をしていくうえでも、生きていくうえでも一番こだわっている言葉です。「自分が日頃口にしていることと実際の行動にずれはないのか」この視点は、私が自分の姿を客観的に見るとき、一番重要な視点としてもってきたものなのです。その視点から見れば、「高き志」は「自分が日頃口にしていること」の部分なのです。ですから、書いたことは自分の行動とつながっていることが必要でした。言い換えれば、この「高き志」で書いた内容が、私の校長としてのやるべきこととつながっていたのです。

その典型的な例は、1年目の11号「自尊心と他者意識」の記事で書いた「高木小の四つのあ」の取組です。この取組は、その年の28号で書いた「視点を変えるから他者意識へ」や「学校として育みたい資質・能力」、各年度の「学校評価に関する記事」、本年度の「学校文化」、そして最近発行した「凡事徹底」等へ様々な広がりを図りながら3年間取り組み続けてきました。また昨年度の11号「ふるさとの宝」に書いた矢谷川のホタルを守る取組は、地域の活動と連携を図りながら2年間継続できており、本年度は「ふるさとの宝を引き継ぐ」という記事でその活動をお伝えしました。

このように校長としての職務を進めていく上で、この「学校便り」をととても大切にしながら取り組んできた3年間でした。

今後は、本校で3年間、そしてこの8年間、お伝えしてきたこれらの思いや願いを大切にしつつ、社会のために少しでも役に立てるような生活ができればと考えています。

お知らせ：12月の学級懇談時にお伝えしておりました来年度の通知表についてです。導入予定であった2回発行を見合わせるようになりました。今までどおりの3回発行となりますのでお知らせいたします。